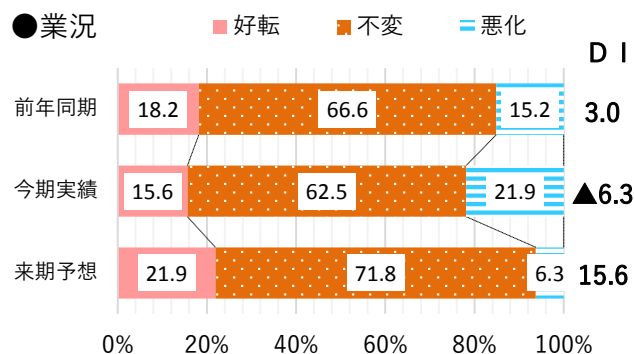


観光業

業況、売上、採算

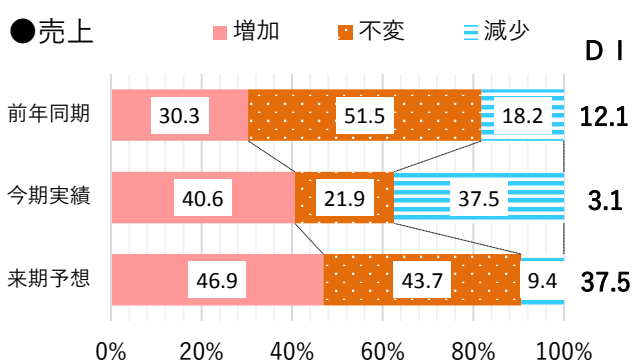
今期（2019.4～6）の業況判断DIは▲6.3で、前年同期(2018.4～6)と比べ9.3ポイント低下しました。

来期（2019.7～9）は、今期と比べ業況が好転すると予想しています。



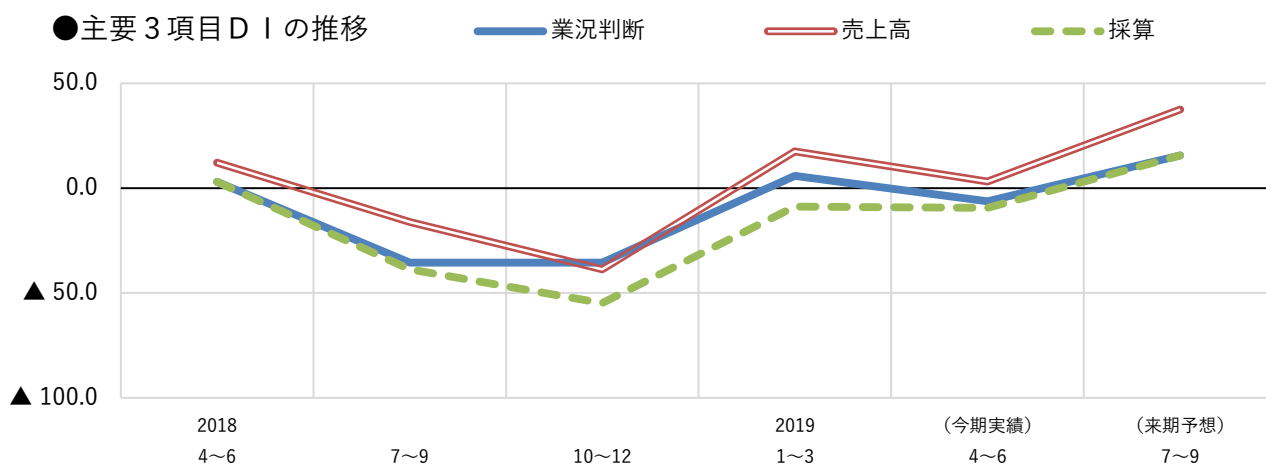
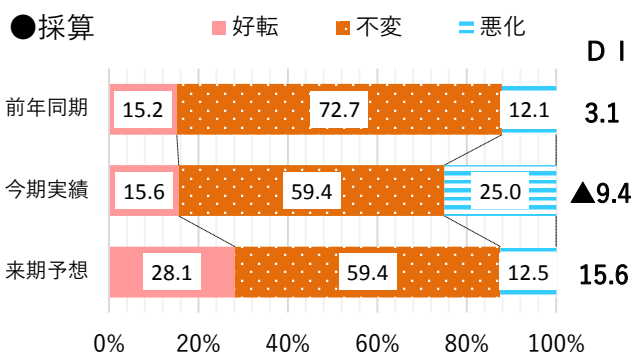
今期の売上高DIは3.1で、前年同期と比べ9.0ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ売上が大きく増加すると予想しています。



今期の採算DIは▲9.4で、前年同期と比べ12.5ポイント低下しました。

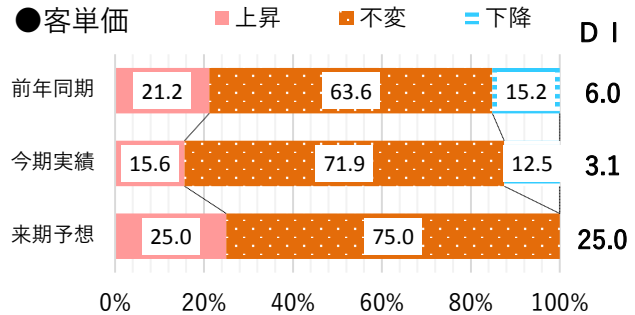
来期は、今期と比べ採算が好転すると予想しています。



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

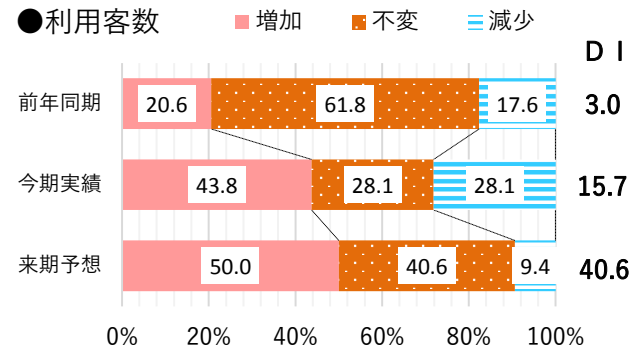
今期の客単価DIは3.1で、前年同期と比べ2.9ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ客単価の上昇傾向が大幅に強まると予想しています。



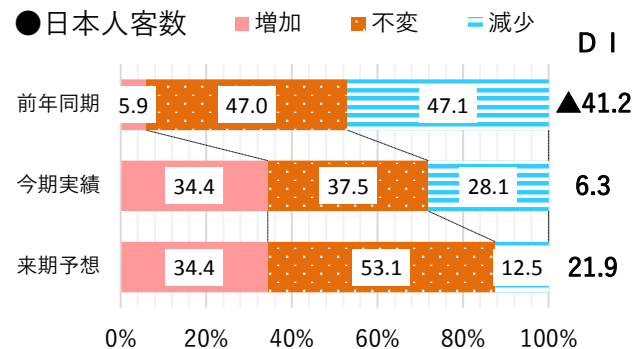
今期の利用客数DIは15.7で、前年同期と比べ12.7ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ利用客数の増加傾向が大幅に強まると予想しています。



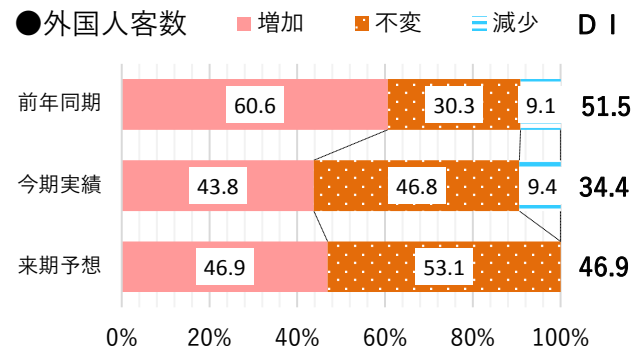
今期の日本人客数DIは6.3で、前年同期と比べ47.5ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、日本人客数の増加傾向が続くと予想しています。



今期の外国人客数DIは34.4で、前年同期と比べ17.1ポイント低下しました。

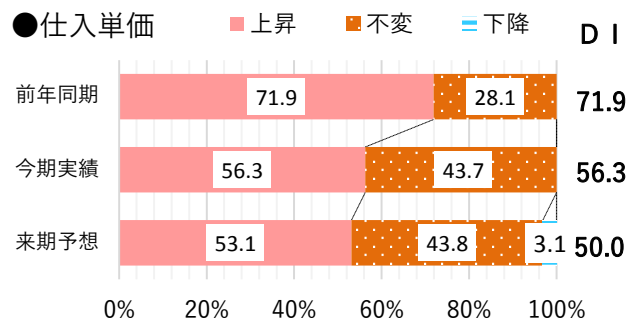
来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、外国人客数の増加傾向が続くと予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは56.3で、前年同期と比べ15.6ポイント低下しました。

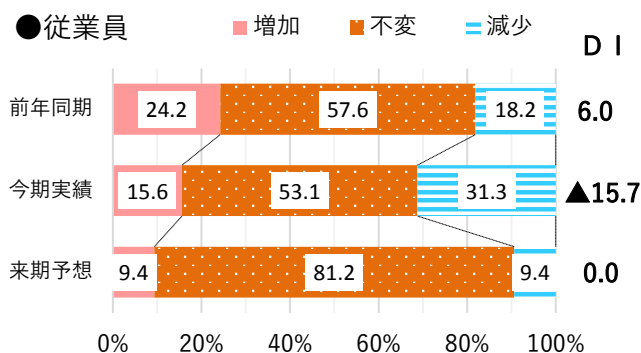
来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



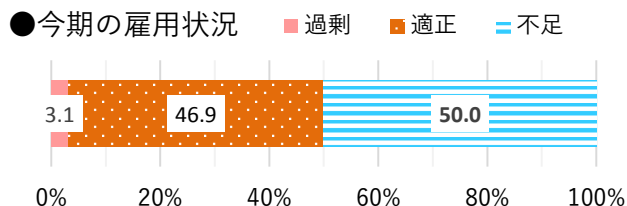
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲15.7で、前年同期と比べ21.7ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は3.1%、適正であると回答した企業の割合は46.9%、不足していると回答した企業の割合は50.0%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、観光業全体の31.2%を占めています。

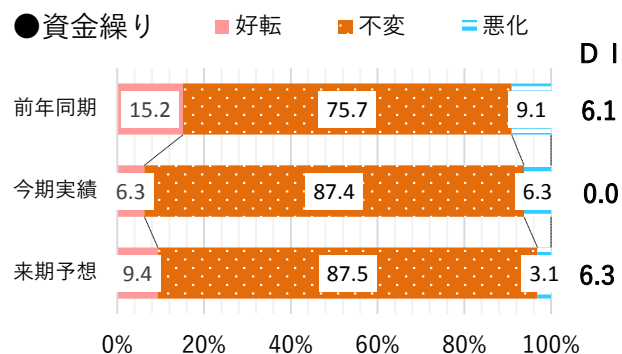
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	4
	不足	1
不変だった	過剰	1
	適正	10
	不足	6
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	9

資金繰り、設備投資

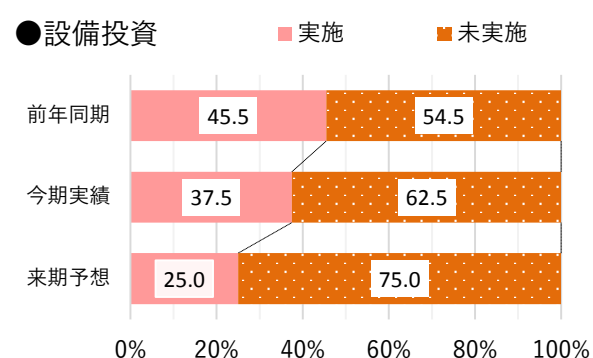
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と比べ6.1ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ資金繰りの好転傾向が強まると予想しています。



設備投資を実施した企業の割合は37.5%で、前年同期と比べて8.0%減少しました。投資内容は、1位が「OA機器」、2位が「サービス設備」、「付帯施設」(同位)の順です。

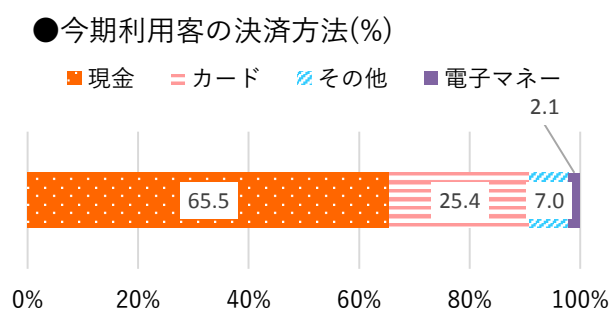
来期に設備投資を計画している企業の割合は25.0%で、今期と比べ減少すると予想しています。



今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で65.5%、2位がカードで25.4%、3位がその他で7.0%、4位が電子マネーで2.1%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、銀行振込、小切手、旅行代理店による支払、クーポン券、金券、ポイントカード、掛売りです。

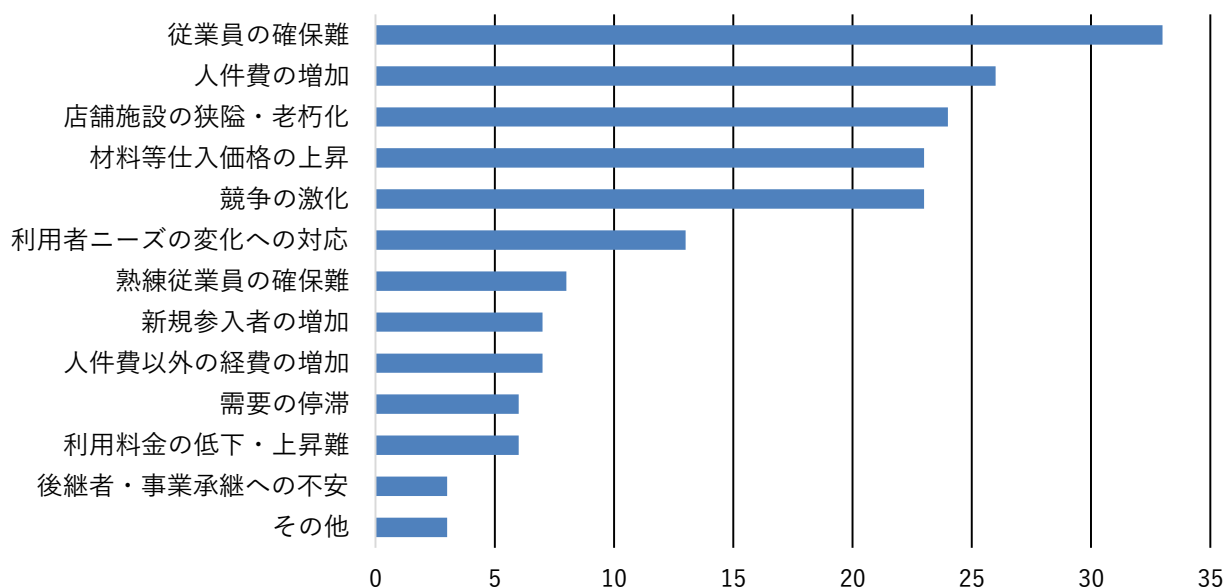


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は55.0%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「人件費の増加」、3位が「店舗施設の狭隘・老朽化」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 北海道ふっこう割が終了し、高単価の商品が低迷した。仕入単価が上昇し、業況が悪化した。(ホテル)
- 競合他社の参入があった。10連休後は、旅行を控える傾向が見られた。(ホテル)
- 設備の老朽化による不備等があり、販売出来ない部屋が発生した。(ホテル)
- 一部施設の改修と、新規商品、新規サービスの提供を開始した。(ホテル)
- 近隣に宿泊施設が開業したため、客数の確保が難しい。(ホテル)
- 連休中は好調だったが、6月の平日は落ち込んだ。(コテージ・ペンション)
- ゴールデンウィークが10連休だったため、前半は好調だったが、連休終了後は客足が遠のいた。中盤から回復したが、思った程伸長せず、6月の売上も悪化した。(飲食店)
- 人材不足による回転率の低下と、それに伴うメニュー削減による売上の低下が目立った。(飲食店)
- 人材確保に苦労している。(飲食店)
- 4月から移動販売車で市内巡回販売を開始したが、認知度が低く苦戦している。10連休は、対前年度比126%の売上でも好調だったが、連休後は反動があり、売上が下がった。(土産品)
- 昨秋の地震と、後志自動車道の開通以降、来店客数の減少と業況の悪化が続いている。外国人を中心に、売上単価は上昇しているが、日本人を含めた総客数は減少した。(土産品)
- 5月の連休で、売上が大きく増加したが、免税利用を含む外国人の売上が大きく落ち込んだ。(土産品)
- ゴールデンウィーク中の売上が伸長し、業況が大きく好転した。(土産品)
- 原材料価格が値上がりしたため、資金繰りに苦労した。(土産品)
- ゴールデンウィークの10連休で、売上が増加した。(土産品)
- 原材料価格は微増し、人材は不足している。(土産品)
- 超大型連休により、観光需要が急増した。(土産品)
- 連休の長期化により、レジャーでの利用が前年の10%増加となった。インバウンドの利用も増加している。(レンタカー)
- 5月は連休中の売上が好調だったが、4月と6月は不調だった。(レンタカー)

- 観光船、駐車場ともに連休中の好天により、利用者が増加した。観光船の料金値上げにより、売上が増加した。（船舶貸渡業）
- 前年同期と比べ、4～6月全ての月で利用客数が増加した。連休中は、対前年比約1.9倍の利用客数となった。（水運業）

[来期の業況について]

- 新しいプランを作り、客室稼働率のアップを図る。（ホテル）
- 商品の見直しを行い、業況の回復を目指す。（ホテル）
- 繁忙期となる、夏休み期間の人材確保が課題である。（コテージ・ペンション）
- 仕入単価と人件費の抑制が課題である。消費税増税の影響も懸念される。（飲食店）
- 従業員を確保することで、回転率を上げ、メニューの変更と利益の増加を図る。（飲食店）
- 引き続き厳しい状況が続くと予想する。観光ゾーンをはじめ、市内のキャッシュレス化を大胆かつ急速に進める必要性を感じている。行政は、消費税増税を契機に、補助金や政策を効果的に使って、キャッシュレス決済機能の充実を図るべきだろう。（土産品）
- 天気によって、売上が変動するだろう。大きなマイナス要因は見当たらない。（土産品）
- 大きなイベント等が無い場合、例年通りの業況となるだろう。（土産品）
- 夏休みによる、観光入込客数の増加が期待される。（土産品）
- 原材料価格は微増する見通しである。（土産品）
- 潮まつり、お盆時期の客数増加に期待している。（土産品）
- 昨年9月は震災のため、全社的に売上が落ち込んだが、今年は、2年前と同程度の業績は確保できる見込みである。レジャーを通じた、売上増加を期待している。（レンタカー）
- やや悪化する見込みである。（レンタカー）
- 観光船は料金値上げのため、売上の増加が見込まれるが、天候に左右されるため、不透明な部分がある。（船舶貸渡業）
- 例年7月～9月は、最も利用客が多い月であり、今期より利用客の増加が見込まれる。（水運業）